

「日本史探究」シラバス

学科	普通科	学年	3 年	類型	I・II	組	1・2 組	単位数	3
使用教科書	詳説日本史探究（山川出版社）								
副教材等	最新日本史図表（第一学習社）、詳説日本史 10 分間テスト（山川出版社） 新日本史要点ノート 応用編（啓隆社）								

1 学習の到達目標

① 日本史の基礎的な知識を身に付け、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする。
② 日本史の学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を身に付ける。

2 学習評価

次の三つの観点に基づき、各学期ともに定期考査までの学習内容のまとまりごとに、下記の評価項目により評価をする。学年末において、観点別評価を 5 段階の評定に総括する。

知識・技能	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的に捉えて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けているか。	(1)(2)(5)
思考・判断・表現	日本の歴史の展開に関わる事象の意義や文化などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察しているか。	(1)(2)(3)(5)
主体的に学習に取り組む態度	日本の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して他国や他国の文化を尊重することの大切さについて深めようとしているか。	(2)(3)(4)(5)
評価方法	主な評価項目	
ペーパーテスト	(1)定期考査	
学習状況の観察	(2)ノート (3)表現した問い (4)歴史的な事象に関する興味・関心	
課題などの提出状況	(5)レポート	
模擬授業	(6)模擬授業の構想 (7)模擬授業の発表 (8)模擬授業の質疑応答	

3 学習の計画

学期	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	評価項目
一 学 期	第 11 章 近世から近代へ 1 開国と幕末の動乱 2 幕府の滅亡と新政府の発足	・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響に着目し、前時代との比較を通して、近世から近代への時代の転換を理解するとともに、時代の特徴を捉えるために、時代を通観する問いを表現する。	(3)
	第 12 章 近代国家の成立 1 明治維新と富国強兵 2 立憲国家の成立	・近代の政治の展開に関わる主題を設定し、政府による政策が国民国家の形成に果たした意味や意義について、史資料を用いながら、多面的・多角的に考察し、表現する。	(6)
	第 13 章 近代国家の展開 1 日清・日露戦争と国際関係 2 第一次世界大戦と日本 3 ワシントン体制	・国際的地位の確立や第一次世界大戦について、アジアと欧米諸国を中心とした国際関係の変化に着目し、その原因や影響を構造的に理解する。	(7)
	第 14 章 近代産業と生活 1 近代産業の発展 2 近代文化の発達 3 市民生活の変容と大衆文化	・日本の工業化の進展や近代文化の形成に関わる主題を設定し、産業の発達や学問の発展や教育制度について、前時代との比較を通じて、その背景や影響を考察し表現する中で、大衆化を概念的に理解する。	(6)
二 学 期	第 15 章 恐慌と第二次世界大戦 1 恐慌の時代 2 軍部の台頭 3 第二次世界大戦	・第二次世界大戦について、第一次世界大戦後の政治・社会・経済の変化を踏まえながら、第二次世界大戦が起こった要因を理解する。 ・第二次世界大戦下での加害や被害について、それらを現代的な課題として捉え、解決するための方法について考察し表現する。	(7) (8) (5)
	第 16 章 占領下の日本 1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	・第二次世界大戦後の日本において、国家・社会の変容を主題に設定し、当時の日本が置かれていた国際環境に着目し、戦前と戦後における連続と断絶について考察し表現する。	(3)
	第 17 章 高度経済成長の時代 1 55 年体制 2 経済復興から高度経済成長へ	・戦後の政治展開や経済復興、アジア諸国との関係、高度経済成長、社会・経済・情報の高度化について、グローバル化を主題に設定し、戦後からの復興を推進した要因を考察し表現する。	(6) (7) (8)
	第 18 章 激動する世界と日本 1 経済大国への道 2 冷戦の終結と日本社会の変容	・高度経済成長期やその後の日本社会や経済について、国際環境の変化に着目し、多面的・多角的に考察し表現する。	(5)
三 学 期	現代日本の課題の探究	・これまでの学習を踏まえ、持続可能な社会の実現を視野に入れ、地域社会や身の回りの事象と関連させて主題を設定し、諸資料を活用して探究する活動を通して、現代の日本の課題の形成に関わる歴史と展望について多面的・多角的に考察、構想して表現する。	(5)

備考 (1)(2)(4)については、全ての単元において評価項目として用いる。